

平成23年度 第1回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成23年7月27日（水） 午後2時～午後4時30分

◇ 会 場 埼玉会館 3C会議室

◇ 出席者 (1) 出席委員

内田一雄委員	白石匡子委員	松田昌雄委員
久保田洋子委員	松山妙子委員	佐藤淑恵委員
小笠原清春委員	関口聡美委員	坂西友秀委員
小谷野幸夫委員	村田三恵委員	

(2) 教育局

【市町村支援部】

樋田副部長

【生涯学習文化財課】

高橋主査

(3) 図書館職員

【県立浦和図書館】

小川館長 永作副館長 乙骨副館長 西島教育主幹  
民本主席司書主幹 荻原司書主幹 坂本担当課長

【県立熊谷図書館】

岸本館長 千吉良副館長 嶋村教育主幹

【県立久喜図書館】

橋本館長 豊崎副館長

◇ 会議次第

1 開 会

[浦和図書館 西島教育主幹]

2 委嘱状交付 市町村支援部 樋田副部長

3 あいさつ 市町村支援部 樋田副部長

県立浦和図書館 小川館長

4 委員紹介

5 会長・副会長選出

委員の互選により、会長に小笠原委員、副会長に坂西委員を選出した。

6 会長・副会長あいさつ

7 職員紹介

8 平成22年度第3回会議録報告

9 会議録署名委員の指名

会長が、内田委員と白石委員を指名し、了承された。

## 10 会議の公開について議決

傍聴希望者が1名いることの報告。会長の指示で傍聴者を入室させる。

## 11 議 事

### (1) 県立図書館の概況について（報告）

〔浦和図書館 乙骨副館長〕

資料1及び資料2に基づき、現行体制に至るまでの経緯、施設及びサービスの現状及び今後の課題について説明

#### 【質疑】

委 員／耐震化の対策とあったが、各図書館で避難訓練というのはどのくらいの頻度でやっているのか。

事務局／各館とも年2回程度行っている。今回の地震で役に立ったという話も聞いている。

委 員／その避難訓練は職員のみなのか。利用者の方も含めてということか。

事務局／訓練の時は職員だけで休館日に実施している。

委 員／難しいとは思いますが、利用者の方も含めて実施するとよいのではないかと思います。

委 員／昭和55年か56年に建築基準法が改正されており、県立図書館は耐震補強をしなくてはいけない建物だと思うが、その点からみても県立図書館が3館あるというのは必要なのか。資料の分散は利用者にとっては不便で、思い切って1館にするということ、もっと利便性の高い図書館にするということがあってよいのではないか。

会 長／それに関連して、資料2のライフチャンスライブラリーにある取組9に「3館を1館に再編する」という言葉があるが、現時点での考え方について教えてほしい。

事務局／ライフチャンスライブラリー化の提言をいただいたのが平成21年2月だが、ライフチャンスライブラリー化自体は県でやっている。県の動きとは別に現状の3館ある図書館として改革できるものについてはやっといこうということで動いている。しかし、3館で行うには施設の制約があるので、その制約の中で前向きに取り組んでいこうとしている。

委 員／3館体制で最善を尽くそうとするならば、資料が分散していてもそれぞれの図書館の専門性をもっと県民に標榜して分かりやすくしていったほうがよいのではないかと思います。レファレンスについて、各館何人ずつ対応しているのか。

事務局／3館でカウンターが10程あるが、その中には調査相談を行うものだけでなく児童のカウンターもあり、それぞれのカウンターに職員がいるので、レファレンスだけで何人配置しているという説明は難しい。カウンターは各館の参考調査担当の職員がローテーションで対応している。初めての職員だけがカウンターに立って利用者の方を困らせたりしないように経験のある職員と一緒に配置するなどの対応を図っている。

委 員／できれば職員の方が講習などに行けたらサービスの質が向上すると思うので考

慮していただきたい。

委員／一市民としての利便性としては、一番望んでいるのは極端なことを言えば図書館は24時間開館してほしい。少なくとも開館時間を夜8時、11時まで伸ばそうという検討はあるのかないのか。あと、図書館は思い切り贅沢な知的空間であってほしいと思う。たとえば本を借りてからゆったりと緑のあるカフェでくつろいで読む、眺めるという空間がほしい。公的では難しいと思うが民間活力によって付帯施設をつける、といった視点からの検討があるのかないのか。また、書籍とか雑誌の分類別の稼働率、利用率を調べているのか教えてほしい。

事務局／開館時間については、開いている時間が長ければ利便性が高いのは確かだが、県立図書館も現在の開館時間に至るまで、夜間の開館時間を伸ばしたり、祝日を全て開館したり特別整理期間を短くしたり、7月、8月の臨時開館を行ったりと様々な工夫をしてきている。一朝一夕に拡大するのは現状では難しいが、これからも検討の余地はあると考えている。その一方で開館時間を増やすということではなく、自宅にいても24時間図書館が使えるという視点も大事なことで、インターネットの利用により予約や蔵書検索が自宅に居ながらにしてできる、それから本を借りるのにわざわざ足を運ばなくても市町村立図書館を通じて借りられるといったほかの面にも力を入れ、全体としての利便性を高めていきたいと考えている。2点目のカフェについては現実的には難しい。そのなかでも工夫してちょっと飲んだりできるスペースを作るといったことはしている。3点目の分類別の稼働率は現状では数字は持っていない。要覧の18ページの「3資料利用」で各館別、一般、児童というのは把握している。

会長／これからこの協議会を進めていくうえで、ライフチャンスライブラリーの位置づけを説明してもらえると議論が進めやすいと思う。

事務局／ライフチャンスライブラリー事業そのものは県の生涯学習文化財課で行っており、県立図書館の改革ということコンセプトとした事業であり、サービスの部分と施設設備のハードの部分と両方含めたものである。ハードについては現時点では動きがないが、図書館としては現状の中でできる取り組みを中心にやらざるを得ない状況である。ソフト面については提言を踏まえて取り組んでいる。ハードも含めた全体的なことについては生涯学習文化財課である。事業としては継続して取り組んでおり、進捗状況については動きがあったときには報告させていただきたい。

## (2) 平成22年度事業実施状況及び平成23年度予算及び事業について（報告）

〔浦和図書館 永作副館長〕

平成23年度要覧及び追加資料「平成23年度当初予算概要」に基づき、平成22年度事業実施状況並びに平成23年度予算及び事業について説明

### 【質疑】

会長／23年度予算が対前年度比△7%となっているがこれはシーリングで△7%とな

っているのか。

事務局／8%キャップがかかっていたが経常費も含めて結果として△7%となった。

会 長／今はどの自治体も財政難ということで前年比に比べて5%とか10%とか削減して持ってこないと受け付けない、というのがある。県では8%削減するよう求められたのを△7%で収めたということではどうか。あと、資料費の関係はサービス運営費の5,700万と県民生活支援のための県立図書館重点分野充実事業(交付金事業)の分の4,200万を合わせて1億くらいあるということではどうか。

事務局／交付金事業で3,000万くらいを資料費として考えているので、それに図書館サービス運営費を加えたのが資料費となる。

会 長／交付金事業の資料費は「これを買わなくてはいけない」といった制約はあるのか。

事務局／重点充実分野、つまりビジネス支援とか健康医療情報とか外国語資料といった資料を充実させるために予算が付いているということになる。

会 長／11月に行う図書館と県民のつどいについて、日程等が決まっていたら教えてほしい。

事務局／11月5日(土)、桶川市のさいたま文学館を会場として行う予定である。講演は児童文学作家のあさのあつこ氏をお迎えし、対談形式の講演会を実施していく準備をしている。かなり広い会場を確保できたので、是非ご参加いただければと思う。埼玉県図書館協会と共催で実施しており、年々参加者も増えている。

委 員／要覧の14ページにある行事予定の中に熊谷図書館で2月に「二胡鑑賞会」があり、とてもよいと思う。音楽系とのコラボレーションはこの予定表をみると他にはなく、ほとんどが言語によるものだと思うが、書道とか音楽といった柔らかな融合的な催しというのがあってもいいのかな、という感想をもった。

委 員／交付金事業も含めてだが、資料の収集、選書は館内の職員だけで行うのか、それとも職員以外の方も協力していただいているのか。

事務局／浦和図書館の中に収集を担当する部門がある。図書館の日常的な選定は、実物の本を手にとってみたり出版情報を見たりして選書している。今回の交付金事業は現在ある蔵書を膨らませる、普段収集しているところをさらに範囲を広げるということで、職員が選書している。

### (3) 図書館サービス評価指標について(報告)

[浦和図書館 荻原司書主幹]

資料3に基づき、重点目標とサービス評価指標について説明。

#### 【質疑】

委 員／交付金事業の関係だが、創業ベンチャー支援センターとの連携は考えているのか。

事務局／展示をする予定である。またこの期間、キャリアカウンセラーの派遣をお願いする予定であり、就業支援の面談ができるようにフェアを開催したいと考えている。

会 長／補足だが、さいたま市立中央図書館が駅前という立地からかとも思うが、創業ベンチャー支援センターと連携をし、講演会等を行っている。

委 員／数値化は難しいと思う。日本全体が人口減少の状況の中、絶対数でやるのは厳しいのではないか。パーセンテージでいいのでは。また、国立図書館との連携というのは分かるが、都県立図書館同士の連携、横のネットワークという動きはあるのか、国の指導がないと難しいのかといったところはどうか。

事務局／都県立図書館との連携では資料の相互貸借が一番大きい。市町村立図書館にない資料については県立図書館に依頼が来るが、県立図書館にないものも多数ある。そういう場合に国立国会図書館に依頼すると貸し出しができないというデメリットがあるが、都県立図書館だと館外貸出可という場合がある。そのような点で国立国会図書館と使い分けて連携を進めている。あとは細かい運営について情報のやり取りをしながら参考にしている。

委 員／外国人の方の利用はどのくらいあるのか

事務局／具体的な数字は把握していない。熊谷図書館で外国語の資料をそろえ、多文化サービスを展開しているが、基本的には在住者が多い言語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、英語の4言語を重点的に収集している。冊数は要覧の7ページに記載されているとおりである。また、今年度の交付金事業で充実していく予定である。

委 員／そういう方で利用の仕方がよくわからないという場合に、対応してくれるボランティアのような方はいるのか。

事務局／ボランティアについては中国語と韓国・朝鮮語について、図書館で作成している利用案内に対しアドバイスをいただいている。

委 員／要望だが、利用者アンケートだと利用していただいている方だけの意見になってしまう。たとえば図書館に期待することといったことをコバトンのキャラクターをつけたクイズ形式のようなもので、商業施設でアンケートを行ってみたらまた違った意見がでてくるのではないか。また質問だが、県民への広報活動はホームページ以外にはどのようなことを考えているのか。図書館独自の広報活動はあるのか。

事務局／県のホームページを中心に考えているが、各種イベントのチラシ等色々な手段を使って行いたいと考えており、実際に記者発表や様々な広報誌を使って広報を行っている。記者発表は県で統一的な対応があり、それに沿って行うが、地方紙や観光情報誌など掲載してもらえるかは別として積極的に依頼しており、これは図書館から直接行っている。また、イベントのチラシは駅や県内の公共施設に置いてもらえるようお願いをしている。

委 員／各館でばらばらにイベントがあるが、それはそれぞれの館が広報を行っていて、担当する職員はいないということか。

事務局／各館それぞれが行っているが、各館に広報担当者があり、3館で合わせて広報委員会というものを構成し、年に数回会議を行って年間の広報計画や各館の調整を行っている。

委 員／東日本大震災の関係で、県の公立図書館で協力して被災地に支援を行うといっ

た動きはあるのか。

事務局／物的支援は現時点では行っていない。双葉町のように町ごと避難してきたところもあるが、押しつけることはできないので依頼があれば行えるような体制は整えている。通常は県民のみであるが、被災者に対してはレファレンスや本の貸出を行っている。直接被災者に対してではないが、県民に対し防災という観点から防災資料展を行った。

会 長／県民のつどいの中で、県内の図書館が取り組んだ取組について発表したいという話も聞いているが。

事務局／日本図書館協会から派遣された県内の図書館の職員が被災地で撮った写真や図書館の現状などを展示したいという話があり、公共図書館部会で準備を進めている。

会 長／さいたまスーパーアリーナに双葉町の方が避難してきたときに学校ができたが、その際、さいたま市の図書館職員が行って、何かできないかといった問いかけをしたところ、図書館を開設してほしいという要望があり、実現した。しかしほとんど知られておらず、どうしてもっとアピールしないのかという話をしたことがあった。このような大きな震災を受けて図書館はもっと役に立つというアピールを考えるべきだと思っている。

#### (4) その他

ア 「知って備える 埼玉防災資料」展と埼玉資料室―地域の課題解決のために―  
〔浦和図書館 飯村主任司書〕  
浦和図書館の特徴の一つである地域・行政資料担当の取組について説明を行った。

イ 今後の予定

〔浦和図書館 永作副館長〕  
協議会は年3回を予定。第2回は10月下旬に熊谷で開催する予定。

議事終了

(傍聴者退室)

11 閉会

〔浦和図書館 西島教育主幹〕

会議録署名

会 長 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印